【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成24年10月11日(2012.10.11)

【公開番号】特開2011-215050(P2011-215050A)
【公開日】平成23年10月27日(2011.10.27)
【年通号数】公開・登録公報2011-043
【出願番号】特願2010-84608(P2010-84608)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　21/27　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　21/27　　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成24年8月28日(2012.8.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
表面プラズモン共鳴角で金属膜に入射し、該金属膜で全反射することにより表面プラズモンを発生させる励起光が内部を透過する光学部材であって、
前記金属膜と接する上面と、
該上面と対向して設けられた下面と、
前記上面および前記下面と接続され、前記励起光が入射する入射面と、
前記上面および前記下面と接続され、前記励起光が出射する出射面とを有し、
前記励起光が、前記入射面から前記金属膜に対して前記表面プラズモン共鳴角を満たす異なる複数の角度で入射し、該金属膜で全反射した後、前記上面および前記出射面がなす角部、前記下面および前記出射面がなす角部、ならびに前記出射面で正反射することがないよう、前記入射面と前記出射面との距離、および前記出射面と前記下面に垂直な軸とのなす角度を規定したことを特徴とする光学部材。
【請求項２】
前記出射面に対する前記励起光の入射角が、
前記励起光が全反射する角度より小さくなるように、前記出射面と前記下面に垂直な軸とのなす角度を規定した請求項１の光学部材。
【請求項３】
前記出射面に対する前記励起光の入射角が、ブリュースタ角となるように前記出射面の角度を規定したことを特徴とする請求項２の光学部材。
【請求項４】
前記金属膜に対して前記表面プラズモン共鳴角で入射し、前記金属膜で全反射した前記励起光が前記下面において全反射する位置に散乱面を設けたことを特徴とする請求項１乃至３の光学部材。
【請求項５】
請求項１乃至請求項４の光学部材を用いた表面プラズモン共鳴測定装置。